
東根市「道の駅」基本構想

平成30年3月

東根市

目 次

序：「道の駅」基本構想策定の目的	1
1. 「道の駅」の概要	2
(1) 目的	2
(2) 機能	2
(3) 登録要件	2
(4) 登録	2
(5) 整備の方法	2
(6) 重点「道の駅」制度	3
(7) やまがた道の駅ビジョン 2020 での設置方針等	5
2. 検討の条件	6
(1) 前提条件	6
(2) 都市の特性	6
(3) 「道の駅」整備にあたっての課題	9
3. 道の駅の立地選定	10
4. 「道の駅」の整備方針	13
(1) 基本方針	13
(2) 整備コンセプト	14
5. 導入施設イメージ	15
(1) やまがた道の駅ビジョン 2020 による導入施設イメージ	15
(2) 道の駅「(仮称) さくらんぼ東根」の施設構成	16
(3) 導入機能・施設の設定	17
6. 整備イメージ	18
(1) 骨格的な動線とゾーニング	18
7. 整備方策	19
(1) 整備手法の方法	19
(2) 運営手法	19
(3) スケジュール (予定)	19

序：「道の駅」基本構想策定の目的

本市は、豊かな自然環境と暮らしに便利な都市環境を併せ持ち、着実に定住人口の増加をみる都市です。今後も、周辺都市との連携を強化し、魅力ある都市として発展していくために、「交流」や「情報発信」が重要となります。

「道の駅」は道路利用者に快適な休憩と道路情報等を提供し、道路交通環境の向上に寄与するだけでなく、近年は、地域活性化の拠点施設としても位置付けられ、更には地域情報の発信拠点としても期待されます。

仙台駅前から国道 48 号を經由して約 45km の位置にある本市は、仙台方面からの観光客の玄関口にあたります。また、本市には、年間 53 万人を集客し 13 億円以上の売上を誇る東根市農業協同組合の産直施設「よってけポポラ」や、多世代交流の拠点である「大森山公園」が広域幹線道路の沿道に開設されており、これら施設と効果的に連携する「道の駅」を整備することで様々な相乗効果が期待されます。そこで、「仙台からの交流人口の拡大」「果樹王国ひがしね等の地域情報の発信」「子どもから高齢者までの世代間交流の拡大」の実現に向けた道の駅「(仮称) さくらんぼ東根」の基本構想の策定を行います。

◆広域的な位置



1. 「道の駅」の概要

※「道の駅」登録・案内要綱より

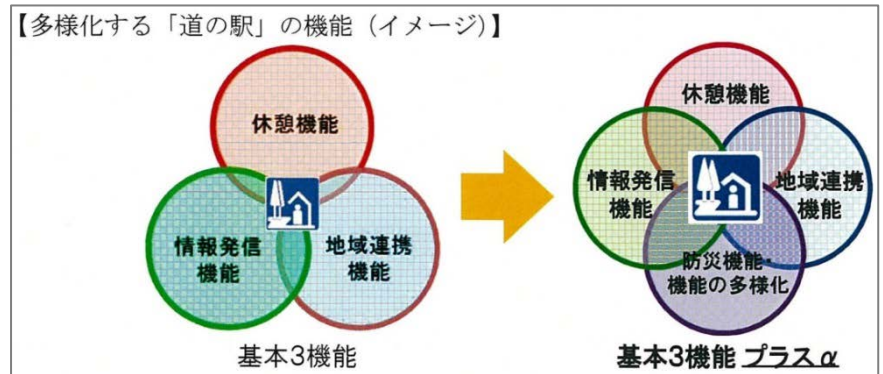
(1) 目的

- 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供並びに地域の振興に寄与することを目的とします。

(2) 機能

- 道路の沿線に駐車場やトイレなどの「休憩機能」、道路情報や地域に関する情報を発信する「情報発信機能」、交流を促進する「地域連携機能」を併せ持つ施設です。

※「やまがた道の駅ビジョン 2020」では、上記の基本機能に加えて、「防災機能・機能の多様化」を位置付けています。



※「やまがた道の駅ビジョン 2020」より

(3) 登録要件

- 道の駅の登録には、以下の要件を満たす必要があります。

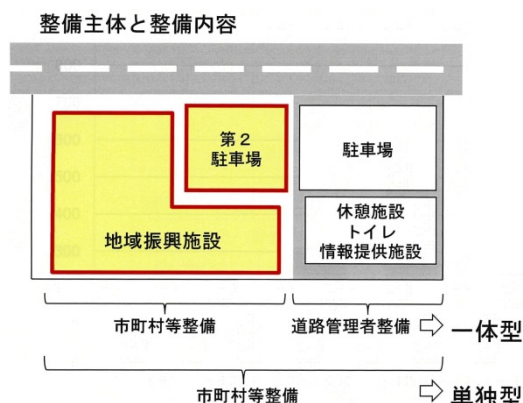
- ① 休 憩 : 利用者が 24 時間、無料で利用できる十分な容量の駐車場（概ね 20 台以上）清潔で 24 時間利用可能なトイレ（水洗で概ね 10 器以上）、障害者用も設置
- ② 情 報 発 信 : 道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
- ③ 地 域 の 連 携 : 文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設
- ④ 設 置 者 : 市町村又は市町村に代り得る公的な団体（都道府県、地方公共団体が 1/3 以上出資する法人、公共団体が推薦する公益法人）
- ⑤ その他の配慮事項 : 施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化

(4) 登録

- 市町村長からの登録申請により、国土交通省で登録します。

(5) 整備の方法

- 道路管理者と市町村等で整備する「一体型」と、市町村ですべて整備する「単独型」があります。



一体型の整備では、道路管理者が休憩施設の計画を策定し、市町村等（地域振興施設等の構想・計画作成）と「道の駅」に関する協定を結び、整備計画を策定して、2者がそれぞれの施設を整備。
⇒協議調整期間が必要

単独型の整備では、市町村等が「道の駅」の全体の構想・計画を策定して道路管理者に相談し、市町村等が「道の駅」の全施設を整備。
⇒一体型に比べて整備までの期間の短縮が可能

(6) 重点「道の駅」制度

- 全国各地で「道の駅」を地域活性化の拠点とする取り組みが進展していることから、国土交通省では、重点「道の駅」制度を創設し、優れた道の駅を関係機関と連携して重点支援する取り組みを実施しています。

※平成 26 年 8 月に本制度の取り組み方針を発表して企画提案を募集し、平成 27 年 1 月及び平成 28 年 1 月に選定結果が発表されています。山形県からは、米沢市の道の駅の計画が重点「道の駅」に選定されています。

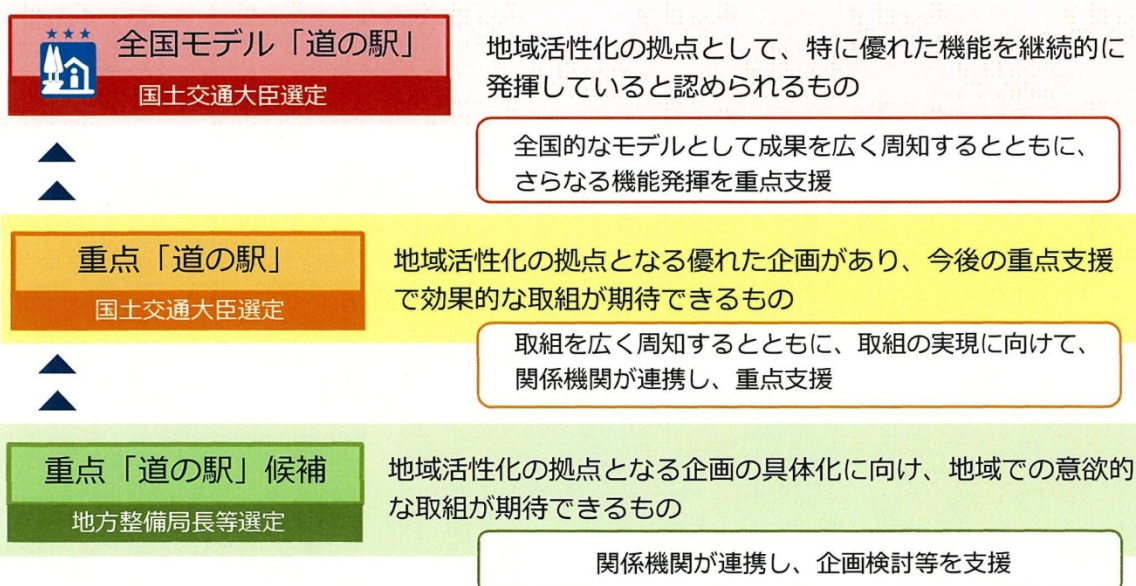
◆国土交通省道路局発表：重点「道の駅」の選定について

【選定結果】

- 全国モデル「道の駅」(H26 選定)：6 か所
- 重点「道の駅」(H26 選定)：35 か所 (うち、1 か所は道の駅「(仮称) よねざわ」)
- 重点「道の駅」(H27 選定)：38 か所
- 重点「道の駅」候補 (H26 選定)：49 か所

- 重点「道の駅」制度では、“地域外から活力を呼ぶゲートウェイ型”と、“地域の元気を創る地域センター型”の2つについて、以下のような機能が想定されている。

《重点「道の駅」に想定される機能》



重点「道の駅」選定箇所

平成 26 年選定

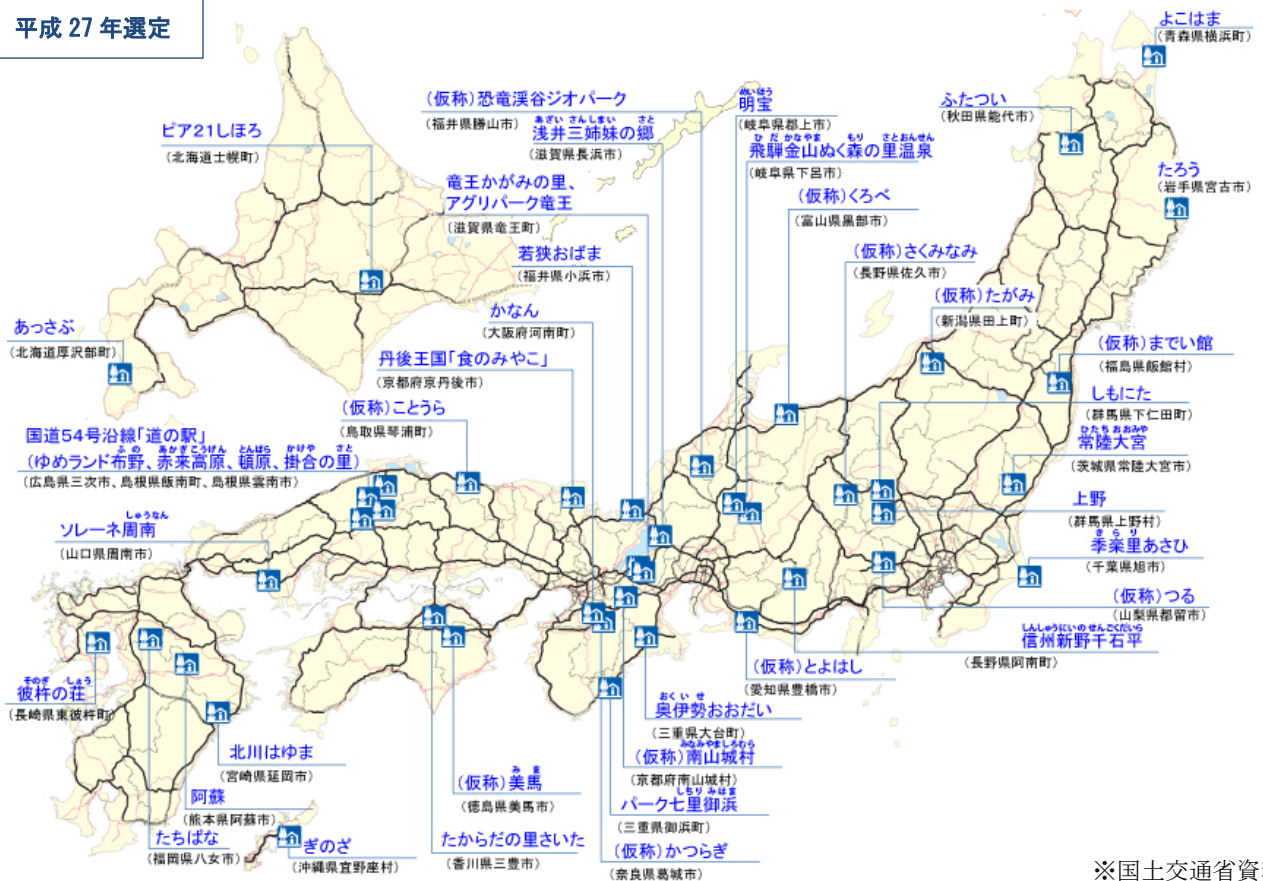
凡 例

○ 全国モデル「道の駅」6箇所

○ 重点「道の駅」35箇所



平成 27 年選定



※国土交通省資料

◆全国モデル「道の駅」の特徴（国土交通省資料から作成）

- ・ 全国モデル「道の駅」として選定された6か所は、以下のような特徴を持っています。

《地域外から活力を呼ぶゲートウェイ型》

主な機能	都道府県	市町村	設置年度	駅名	主な特徴
観光総合	群馬県	川場村	H8年度	川場田園プラザ	「農業プラス観光」で人口3,700人の村に年間約120万人が来訪。リピート率は7割。
	栃木県	茂木町	H8年度	もてぎ	真岡鉄道のSLやサーキットなどの地域の魅力へのアクセスポイントとしてのゲートウェイ機能
	千葉県	南房総市	H5年度	とみうら	ピワ狩り体験企画など、地域の完子ぶ資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売。観光バス3,000台誘致。

《地域の元気を創る地域センター型》

主な機能	都道府県	市町村	設置年度	駅名	主な特徴
産業振興	山口県	萩市	H13年度	萩シーマート	隣接する漁港から新鮮な海産物が直接店頭並び、地産地消にも貢献。地元加工業者と高付加価値商品を開発し、地域に貢献。
	愛媛県	内子町	H8年度	内子フレッシュパークからり	生産者自らが運営に携わり、特産品を活かした加工食品の開発販売等、約60人の雇用を創出
防災	岩手県	遠野市	H10年度	遠野風の丘	東日本大地震時は、後方支援拠点として機能。広域防災拠点として高度な防災機能を分担。

(7) やまがた道の駅ビジョン 2020 での設置方針等

- 山形県では、「やまがた創生総合戦略」の対象期間（2015 年度～2019 年度）も踏まえ、2020 年代初頭までに、県内の「道の駅」を計画的かつ積極的に整備し、既存の「道の駅」も含めた機能強化を図るための方針や、その実現の考え方を示すものとして、「やまがた道の駅ビジョン 2020」を策定しています。
- その概要を以下に整理します。

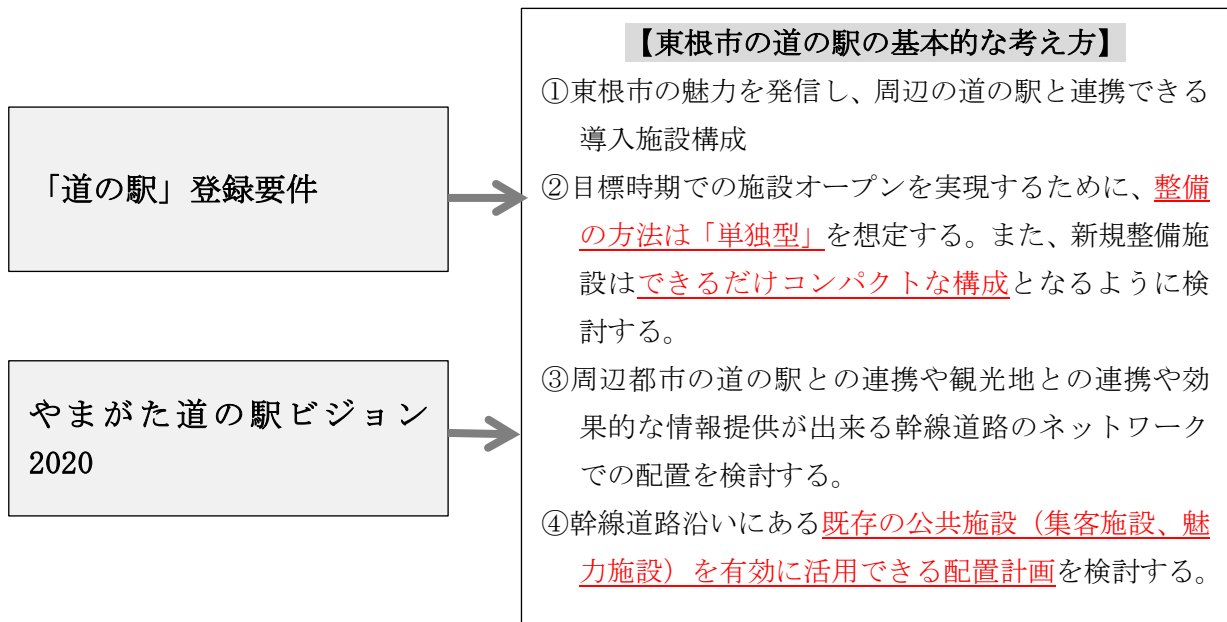
◆ 「やまがた道の駅ビジョン 2020」での設置方針等

基本目標	2020 年代初頭までに 30 駅程度に増やし、「やまがた創生」に資する
配置の考え方	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域間のバランスを取ることで：偏りを解消。 2) 高速道路等からのアクセスがいいこと：高速道路や高規格道路 IC 近傍での配置。 3) 他の「道の駅」や類似施設から一定の間隔を保つこと：最寄りの「道の駅」からできれば 10km 以上の間隔を保つ、同程度の休憩機能を持つ大型ドライブイン、観光物産館並びに産直施設との位置関係に十分に配慮。
目指すべき将来像 (ビジョン)	「まず寄ってもらい、次に巡ってもらう」ための「地域に根付いた」道の駅を目指す。 「山形らしい」基本機能／各々が独自性を持つ／互いに連携する／誰もが行きやすい／誰もが参加できる。
山形らしい基本機能	<ol style="list-style-type: none"> 1) 人にも車にも優しい休憩機能（トイレの洋式化・多機能化／EV 用急速充電設備／車中泊専用エリア） 2) 初めて日本、やまがたを訪れる人を助ける情報発信機能（Wi-Fi 環境／通行止め・路面凍結情報） 3) やまがたを発信し、新たな仕事を生む地域連携機能（伝統野菜の出品／地域食材を使ったメニューの提供） 4) いざという時、頼りになる防災機能（避難所／防災用トイレ／自家発電装置／毛布・食糧等の備蓄／耐震貯水槽／ヘリポート（防災対策離着陸場） 5) 機能の多様化～～「やまがた創生」に資する独自の取り組みの展開～～（やまがた創生総合戦略、地方創生総合戦略の実施／地域センター型機能／アグリランド構想・地域活動の拠点・元気な高齢者の活動拠点・生活サービス施設等の集積する“小さな拠点”と連携する道の駅）

2. 検討の条件

(1) 前提条件

- 本市の「道の駅」基本構想の検討にあたっては、以下のような前提条件を設定します。



(2) 都市の特性

1) 人口特性

- 本市の人口及び世帯数は堅調に増加しており、平成29年8月現在で、約47,700人、約17,200世帯となっています。
- 東根市人口ビジョン（H27年10月）では、2025年の48,117人をピークにして、それ以降は緩やかな減少に転ずると予測されています。

◆人口・世帯数の推移（山形県統計書より、10/1）

年	平成12	平成14	平成16	平成18	平成20	平成22	平成24	平成26	平成28
人口：人	44,800	45,467	45,829	45,968	46,204	46,414	47,217	47,711	47,692
世帯数：世帯	12,579	12,934	13,329	13,701	14,154	14,388	14,854	15,295	15,644
世帯人員：人／世帯	3.56	3.52	3.44	3.36	3.26	3.23	3.18	3.12	3.05

2) 特産品

- 本市は、平成6年に「果樹王国ひがしね」を宣言し、佐藤錦発祥の地としてさくらんぼの生産日本一を誇り、更に、「もも、ブドウ、和梨、リンゴ、ラ・フランス」など、の果物を産出しています。
- 「東根さくらんぼ」のブランド名は、知的財産として国の「地理的表示保護（GI）制度」に登録されました。

◆果樹カレンダー（東根市勢要覧より）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
さくらんぼ					■	■	■	■	■			
もも								■	■			
ぶどう								■	■	■		
ラ・フランス										■	■	■
リンゴ										■	■	■

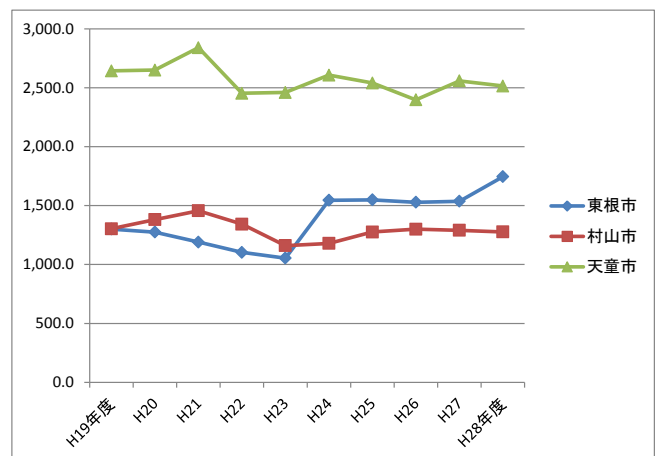
◆地理的表示保護（GI）制度の登録メリット

- 地域ブランド产品として、組織化と差別化が図られる
- 品質を守るものだけが市場に流通する
- 訴訟などの負担なく自分たちのブランドを守ることができる
- 日本の地域ブランド产品の海外展開に寄与する。

3) 観光の状況

- 本市の観光客数は、平成28年度で約175万人/年であり、過去10年間で約44万人の増加となっています。
- 隣接する村山市、天童市では近年の観光客数は横ばいであるのに対して、本市では平成27年度から28年度で約20万人の増加をみえています。
- 主たる観光地別観光者数（延数）で本市の状況をみると、平成28年度では「よつてけポポラ：527.6千人」、「東根温泉：381.6千人」、「大滝峡公園：354.6千人」、「黒伏高原スノーパーク JJ：101.5千人」となっています。

◆観光客数の推移



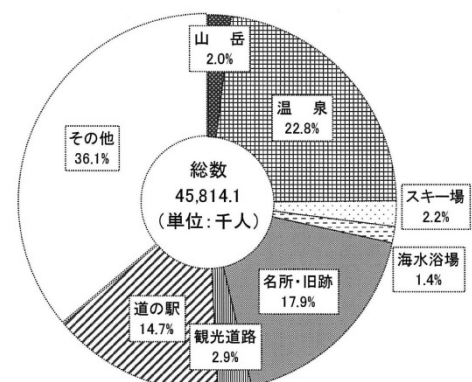
◆東根市及び近隣市の観光者数の推移（山形県観光者数調査より）、単位：千人

	H19年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
東根市	1,300.7	1,275.0	1,189.7	1,103.0	1,054.1	1,545.3	1,548.9	1,528.2	1,536.6	1,745.4
増減		▲ 25.7	▲ 85.3	▲ 86.7	▲ 48.9	491.2	3.6	▲ 20.7	8.4	208.8
村山市	1,303.3	1,380.6	1,455.8	1,342.1	1,160.5	1,178.7	1,275.5	1,300.0	1,289.9	1,276.6
増減		77.3	75.2	▲ 113.7	▲ 181.6	18.2	96.8	24.5	▲ 10.1	▲ 13.3
天童市	2,642.8	2,649.9	2,839.2	2,453.2	2,460.1	2,607.0	2,540.1	2,396.9	2,557.8	2,514.1
増減		7.1	189.3	▲ 386.0	6.9	146.9	▲ 66.9	▲ 143.2	160.9	▲ 43.7

- 山形県の観光地類型別の観光客数の構成比をみると、温泉（22.8%）、名所・旧跡（17.9%）に次いで、三位に道の駅（14.7%）となっていて、道の駅の集客力の高さが伺えます。

◆観光地類型別構成比

（平成28年度山形県観光客数調査より）



4) 主な集客施設等

①産直施設「よってけポポラ」

- ・ JA 東根が運営し、採れたて新鮮野菜・果物、花束、漬物、お米、100%ジュース、加工品等を販売しています。店内には、そば・うどんコーナーと喫茶、ジェラードのお店があります。

◆よってけポポラの概要（平成 29 年 8 月現在）

- ・ 所在地：東根市中央東 3-7-16
- ・ 運営主体：JA さくらんぼひがしね（東根市農業協同組合）
- ・ 開設：平成 15 年 10 月
（H22 年 3 月に 1 回目増築、H28 年 5 月に 2 回目増築）
- ・ 施設面積：約 1,395 ㎡（うち、売り場面積約 760 ㎡）
- ・ 駐車場：約 300 台
- ・ 従業員：正職員 6 名、フルパート 13 名、時間パート 11 名



②子どもの遊ぶ空間「あそびあランド」

- ・ 「遊びから学ぶ」を具体化する施設として整備した、子供たちが屋外の遊びから学ぶことができる場所です。園内には、大型遊具、噴水広場、冒険広場などがあり、プレイリーダーが子どもたちをサポートする体制があります。

◆あそびあランドの概要

- ・ 施設名称：東根市子どもの遊び場（愛称：ひがしね あそびあランド）
- ・ 所在地：東根市大字東根乙 1119 番地の 1（東根市民体育館東隣）
- ・ 敷地面積：約 4ヘクタール
- ・ 駐車場：88 台（他に障害者用 3 台分）
- ・ 事業年度：平成 21 年～平成 24 年度（実施までの事業年度）
- ・ 開設：平成 25 年 5 月
※平成 25 年 5 月 5 日～平成 26 年 3 月 31 日の来園者数は約 35 万人/年



③さくらんぼ東根温泉

- ・ 平坦地に開かれた湯治場として 1910 年（明治 43 年）に開湯した温泉街であり、年間 38 万人の集客がある。20 余軒の旅館・ホテルの他、公共の足湯や日帰り施設があり、立寄拠点としても利用されています。



(3)「道の駅」整備にあたっての課題

1) やまがた観光の情報発信

- ・ 仙台駅前から国道 48 号線を経由して約 45k m の位置にある本市は、仙台方面からの観光客の玄関口にあたります。仙台方面から山形県を訪れる観光客に対して、県内観光地の様々な観光情報を提供し、快適に休憩できる場を提供していく必要があります。
- ・ 特に、市内及び村山地域の物産、催し物、名所旧跡、体験イベントなどをきめ細かく提供していくことが必要です。

2) 「果樹王国ひがしね」のイメージ発信

- ・ 本市は、「果樹王国ひがしね」を宣言して、さくらんぼ、もも、ブドウ、和梨、ラ・フランスなどの生産販売に力を入れてきています。そして、「東根さくらんぼ」のブランド名は、知的財産として国の「地理的表示保護（GI）制度」に登録されました。
- ・ しかし、「果樹王国ひがしね」のブランドイメージや都市イメージの全国的な浸透は十分とは言えません。「果樹王国ひがしね」のイメージを発信する、集客力やアピール力のある拠点づくりが必要です。

3) 既存施設を活用した交流拠点の強化

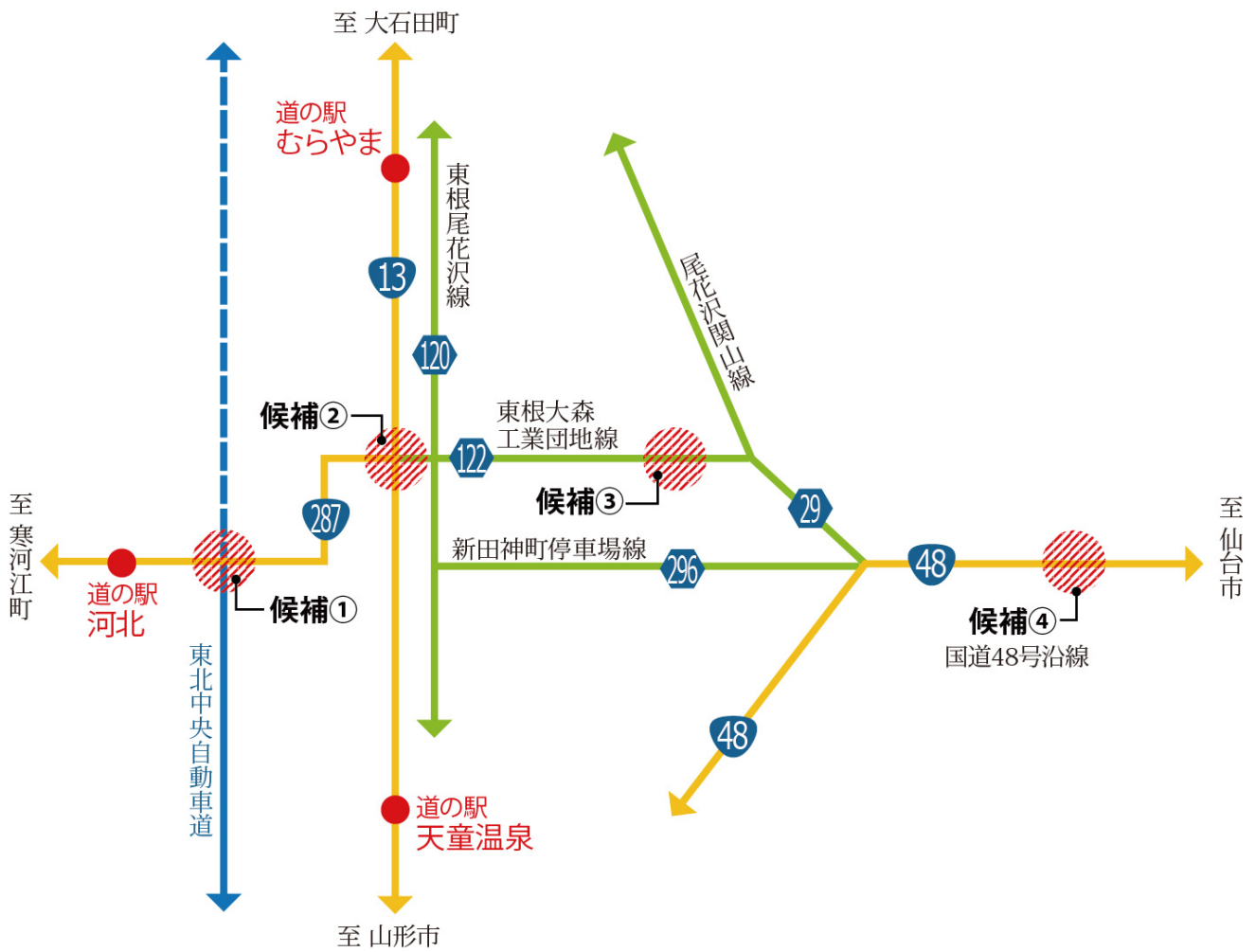
- ・ 本市には、「よってけポポラ」、「東根温泉」、「大滝峡公園」、「黒伏高原スノーパーク JJ」などの集客施設があります。しかし、それぞれの連携が十分ではなく、また、新たに整備された交流施設との連携も十分ではありません。
- ・ そこで、既施の施設と連携するように「道の駅」を整備することで、市内・市外の人を引き付ける交流の場を形成していく必要があります。

3. 道の駅の立地選定

- 道の駅の「登録・案内要綱」及び「やまがた道の駅ビジョン 2020」を踏まえて、本市における道の駅の立地候補地とその評価を」以下に整理します。

◆道の駅の立地候補地位置図

※広域的な交通ネットワークを形成する幹線道路の沿道における道の駅の検討候補地の位置

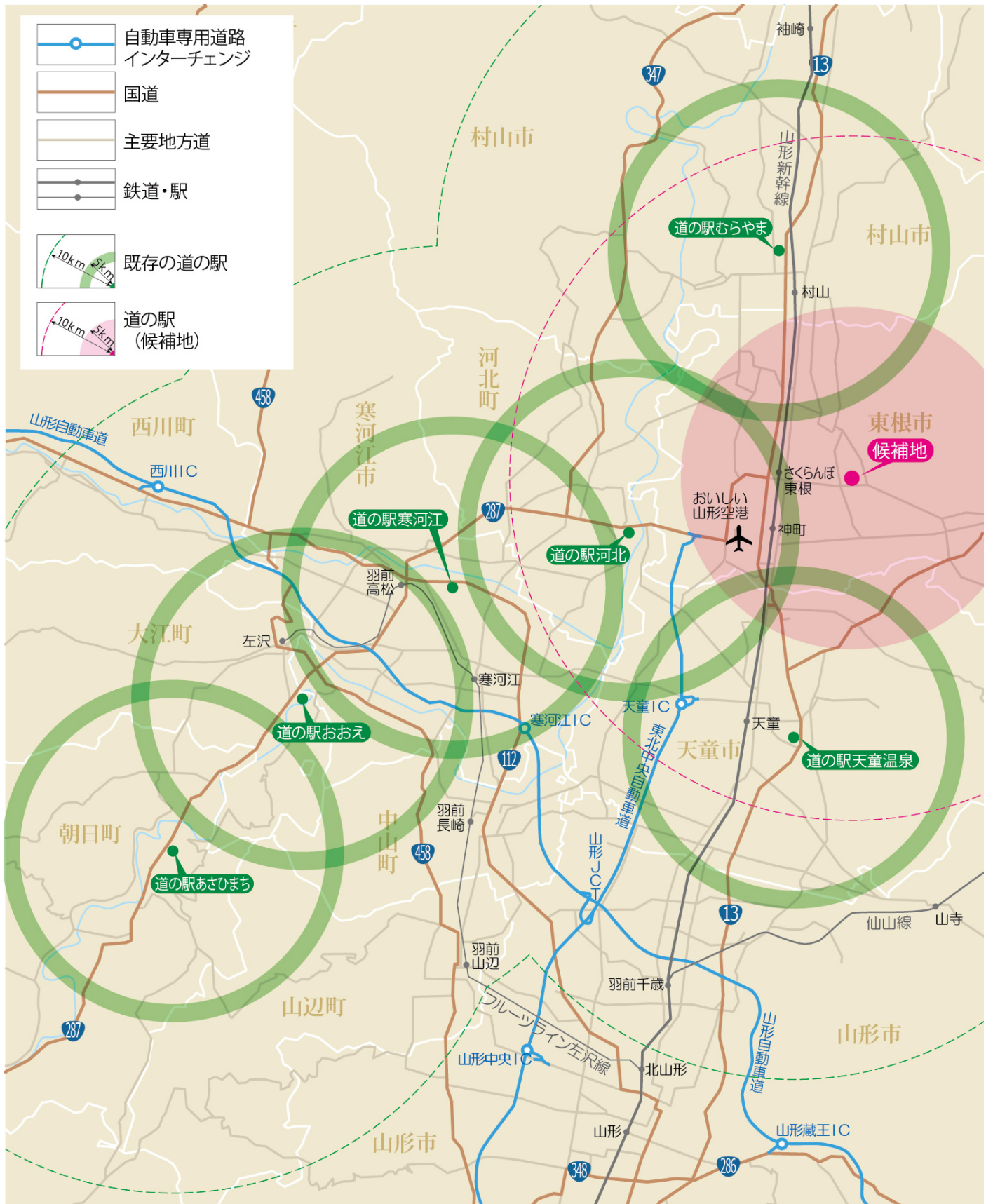


◆道の駅の立地候補地の特徴と評価：選定欄は「◎は立地の適地である、△は立地に難がある」

候補地	特徴	評価	選定
① 東北中央自動車道 I C 周辺 (国道 287 号線交差部周辺)	<ul style="list-style-type: none"> 東北中央自動車道とネットワークすることで、広域圏からの利用者へのサービスが期待できる。 「やまがた道の駅ビジョン 2020」で示されている“高速道路からのアクセスがよいこと”に合致している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国道 287 号線沿道には、隣接都市の「道の駅・河北」が立地している。 本市での配置は、「やまがた道の駅ビジョン 2020」で示されている“<u>他の「道の駅や類似施設」から一定の間隔を保つこと</u>”に合致しない。 <p>※できれば 10 k m 以上の間隔を取る</p>	△
② 国道 13 号線沿道	<ul style="list-style-type: none"> 南北方向の幹線道路沿道の配置であり、道の駅の目的である“道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供”に合致している。 	<ul style="list-style-type: none"> R13 号沿道には、隣接都市の道の駅が、本市の北に「道の駅・むらやま」、南に「道の駅・天童」が、それぞれ 10km の間隔で立地している。 本市での R13 号沿道での配置は、「やまがた道の駅ビジョン 2020」で示されている“<u>他の「道の駅や類似施設」から一定の間隔を保つこと</u>”に合致しない。 	△
③ 県道東根・大森工業団地線沿道	<ul style="list-style-type: none"> 国道 48 号線と国道 287 号線を結ぶ、東西方向の広域幹線道路ネットワークを形成する道路の沿道であり、道の駅の目的である“道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供”に合致している。 	<ul style="list-style-type: none"> 沿道には集客性のある公共施設や J A 産直施設が立地しており、これらとの連携による「多様性のある拠点機能」の集積が可能である。 隣接都市の道の駅と一定の間隔を持った配置が可能である。 仙台方向と国道 13 号線を結ぶメインルート上にあり、候補地は「<u>仙台からの玄関口</u>」に位置する市街地として、各種情報案内等の効果的な役割が期待できる。 	◎
④ 国道 48 号線沿道	<ul style="list-style-type: none"> 仙台方向と国道 13 号線を結ぶメインルートであり、沿道の大部分は山間地である。 	<ul style="list-style-type: none"> 平坦地が少ない山間地の道路であり、道の駅の機能を満たす施設整備のためには、<u>大規模な土木工事等が必要になり、費用増大や長期の工事期間</u>が必要になる可能性が大きい。 	△

- 以上の検討を踏まえ、東根市における道の駅の配置は県道東根・大森工業団地線沿道で、既存施設との連携による集客性効果の高い位置を候補地とします。

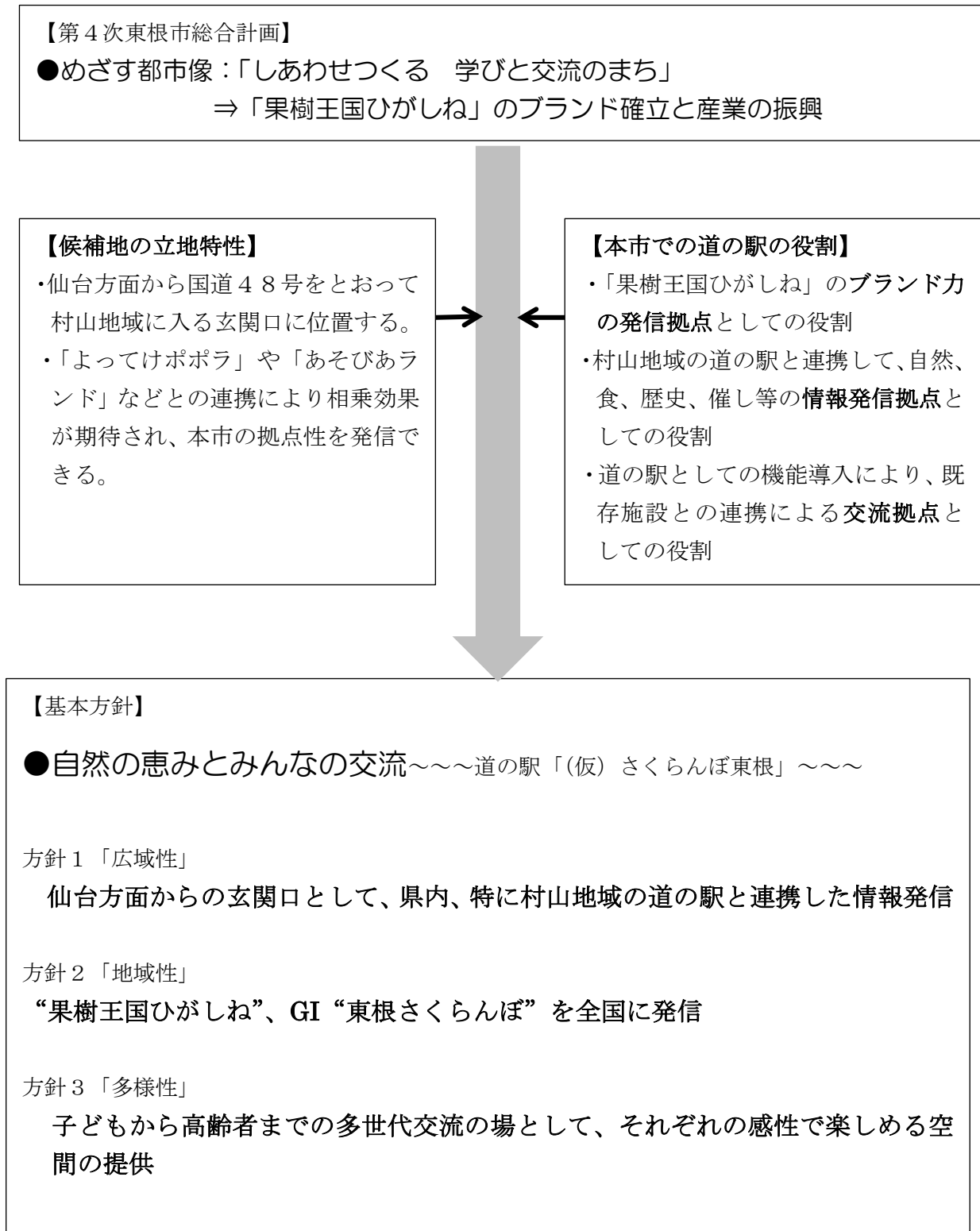
→ J A 産直施設「よってけポポラ」の周辺で、道の駅の整備を検討する。なお、果樹王国ひがしね、G I 東根さくらんぼを全国に発信する意味でも、道の駅「(仮称) さくらんぼ東根」と称する。



4. 「道の駅」の整備方針

(1) 基本方針

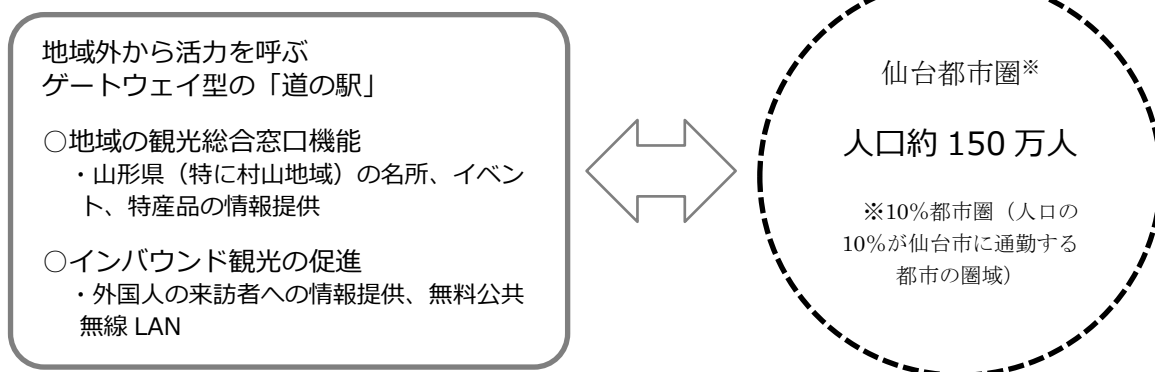
- 本市の上位計画や候補地の立地特性を踏まえて、「道の駅」整備の基本方針を次のように設定します。



(2) 整備コンセプト

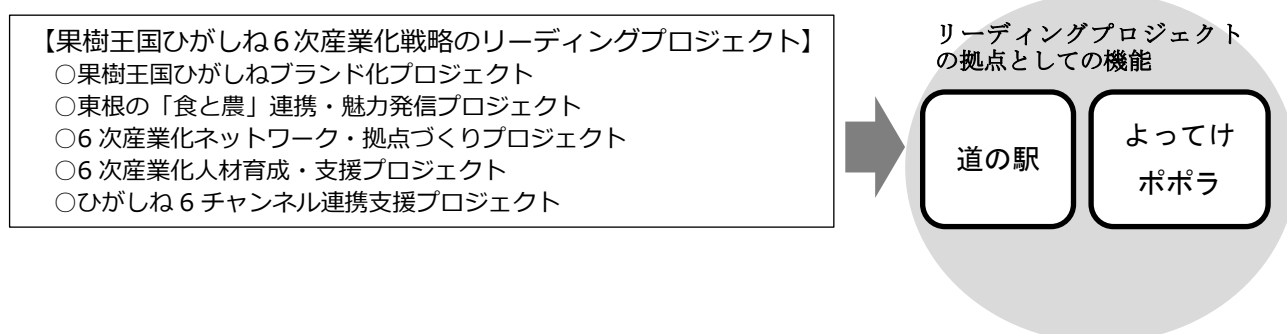
1) ゲートウェイ型の「道の駅」の整備

- ・ 計画地は、大規模な人口を擁する仙台都市圏から山形県への玄関口にあたります。仙台駅前から約45kmの距離にあり、自動車利用での観光来訪者の立寄拠点としても好立地の場所にあります。
- ・ そこで、当地区での「道の駅」は、地域外から活力を呼ぶゲートウェイ型の「道の駅」としての機能を充実させていきます。



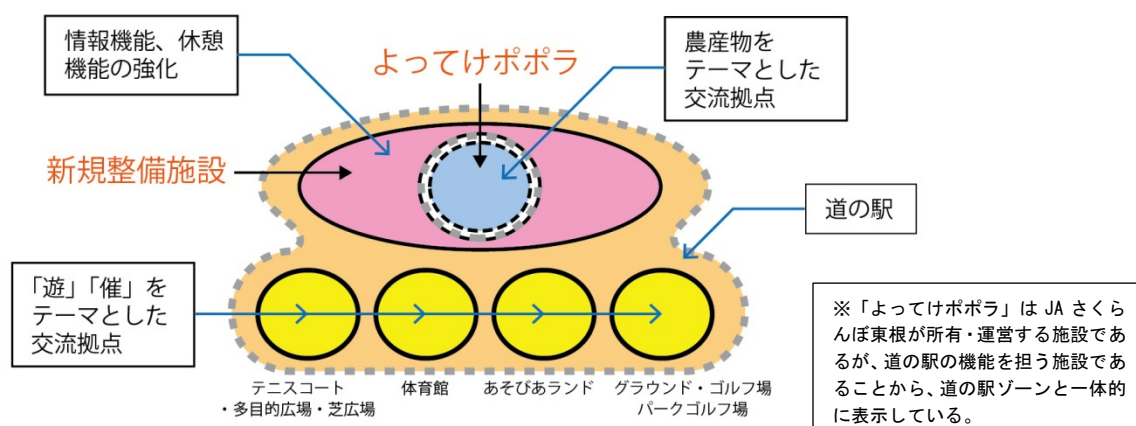
2) 「果樹王国ひがしね」を全国に発信する「道の駅」づくり

- ・ 国の地理的表示保護制度（GI）に登録された「東根さくらんぼ」のブランド名を活用し、「よってけポポラ」と連携して、“果樹王国ひがしね”を全国に発信していく役割を果たす機能を充実させていきます。※隣接する「よってけポポラ」と連携を図ることで、“果樹王国ひがしね”の地域性を強力に発信していきます。



3) 多世代交流の拠点となる「道の駅」づくり

- ・ 計画地には、集客施設や「あそびあランド」、体育館、グランドゴルフ場等の施設が立地していることから、これらを地域連携施設として相乗効果を発揮できるような「道の駅」の整備を行います。



5. 導入施設イメージ

(1) やまがた道の駅ビジョン 2020 による導入施設イメージ

- 「(仮称) 道の駅・さくらんぼ東根」は、新規に整備する道の駅であり、「やまがた道の駅ビジョン 2020」を踏まえた施設整備を行う事とします。「やまがた道の駅ビジョン 2020」で示された具体的な取り組みの例で「◎必須、○実施すべき」とされているものは、道の駅機能として導入していく)
- 大森山公園を道の駅の区域に含むことで、多様性のある個性的な道の駅の機能を待たせるようにします。
- 「よってけポポラ」との連携による多様性のある魅力づくりと集客性の向上を図る整備を行います。

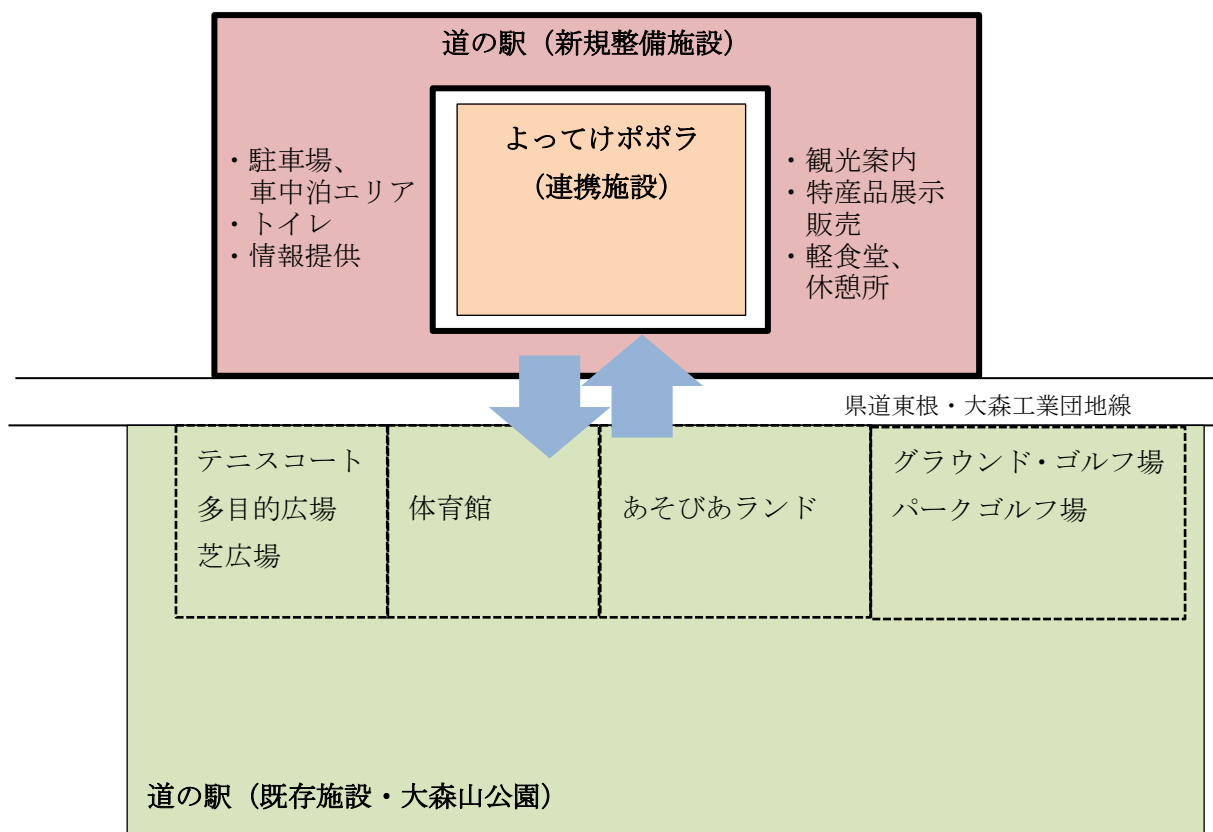
◆「やまがた道の駅ビジョン 2020」導入施設イメージ

機能	やまがた道の駅ビジョン 2020 による取組の例 (◎必須、○実施すべき、△検討)	施設イメージ	
休憩機能	トイレの洋式化・多様化	◎洋式化・高機能化 (高機能: 温水洗浄便座) ◎多機能化 (車イス・オストメイト対応) ○多目的室、便利施設 (おむつ替えベッド、授乳室、子供用足置き台) △パウダールーム	需要推計に基づくトイレ (洋式トイレ、高機能) 多機能トイレ ※多目的室の併設、パウダールームの併設
	EV用急速充電設備	◎EV用急速充電設備 ○案内板、路面標示 (EV用急速充電設備への案内)	EV用急速充電設備と適切な案内
	車中泊専用エリア	◎専用駐車スペース ◎100V電源 ○専用ゴミ捨て場 △防犯灯、防犯カメラの設置 △シャワー、コインランドリー	3m×6m以上、4台 駐車スペースごとに1器 1か所のゴミ捨て場 要検討
情報発信機能	Wi-Fi環境の整備	◎無料公衆無線LAN (Wi-Fi認証) 設備の設置 ◎Wi-Fiスポット案内表示 ○ポータルサイトの作成・多言語化 ○道の駅ポータルサイトの連携	無料公衆無線LAN設備 Wi-Fiスポット案内表示 ポータルサイトの作成・多言語化、連携
	通行止め、路面凍結等の情報提供	◎道路交通情報の提供装置 ○大型モニターの設置 △ライブカメラ情報の提供	総合的な情報提供装置の設置と情報提供 (道路交通情報+観光情報+県内の道の駅情報など)
地域連携機能	物販における県産品	◎6次産業化等による県産品の開発・販売 △製造加工所の誘致 △製造拠点施設の整備・改修	J Aと連携した特産品加工展示販売
	観光案内所の整備	◎観光案内所の設置 (できるだけ有人の案内所) ◎観光情報の提供 (パンフ配布、広域観光情報の提供) ◎駅長会議等を通じた連携、 ◎看板・誘導サインの一元化 (県が作成する共通サイン) ○外国人向け観光案内所の設置 △観光案内所配置場所の見直し・改善	総合的な観光案内を行う場所・体制の構築
防災機能	◎災害時の機能確保 (仮設トイレ、自家発電装置、耐水貯水槽、毛布・非常食・飲料水等の備蓄) △ヘリポート (防災対応離着場) の設置 △防災イベントの開催	防災備蓄、マンホールトイレ (貯水槽)、地域防災計画の臨時ヘリポート、ドクターヘリの臨時ヘリポート、避難地・避難所・(帰宅困難者) 災害時帰宅支援ステーション、一時滞在施設	
機能の多様化	小さな拠点	役場機能 (移転相談、ふるさと納税窓口当) コミュニティ機能 (公民館、集会所等) 医療・福祉機能 (診療所、介護施設、高齢者憩いの場、保育園) 生活改善機能 (コンビニ、郵便、ATM)	
	教育・学習機能	教育機関との連携、就労体験	
	文化振興機能	特産品の制作・実習体験	
	ゲートウェイ機能	高速バス乗り場、パーク&バスライド機能、レンタカーサービス	
その他	交通安全機能		県道東根・大森工業団地線を渡る横断施設、交通信号

(2) (仮称)道の駅・さくらんぼ東根の施設構成

- ・ 既存公共施設を有効に活用することで、多様性があり魅力のある道の駅の配置を行います。また、集客力のある JA 産直施設「よっててけポポラ」を関連施設として、相互補完するような整備を行います。
- ・ 道の駅の機能を満たす施設のうち、休憩施設・トイレ・交通情報や観光情報の提供・特産品展示販売・軽食喫茶などの施設は、(仮)センター棟として集約し、「よっててけポポラ」の利用者にも便利な位置での配置を行います。

◆施設配置イメージ



(3) 導入機能・施設・設備及び整備・運営主体の設定

- 道の駅「(仮称) さくらんぼ東根」は、新規に整備する道の駅であり、「やまがた道の駅ビジョン 2020」を踏まえた施設整備を行う事とします。(「やまがた道の駅ビジョン 2020」で示された具体的な取り組みの例で必須、実施すべきとされているものは、道の駅機能として導入していく)
- 大森山公園を道の駅の区域に含むことで、既存施設を活用した多様性のある個性的な道の駅の機能を待たせるようにします。
- 「よってけポポラ」との連携による多様性のある魅力づくりと集客性の向上を図る整備を行います。

◆道の駅「(仮) さくらんぼ東根」での導入機能・施設・設備及び整備・運営主体 (案)

機能	施設・設備		整備・運営			
			市	JA	他 ※2	
休憩機能	● 駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 普通車 大型バス 大型貨物 車いす対応 車中泊エリア 二輪車 EV用急速充電設備 	○			
	● トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 男性用 女性用 オストメイト 	○			
	休憩スペース	・40人相当の休憩スペース	○			
	軽食・喫茶	・テイクアウト・食事・喫茶		○	○	
情報発信機能	● 観光案内所	<ul style="list-style-type: none"> 山形県内、周辺地域、東根市内の観光情報の提供 行政情報（ふるさと納税、地理的表示保護制度[G.I.]）の提供 	○		○	
	● 道路交通情報	・モニター等による道路交通情報の提供	○		○	
地域連携機能	● 物産品販売※1	・東根市の生鮮・加工食品などの展示販売		○		
	体験・運動・交流	・大森山公園の既存施設の活用 (多目的広場、体育館、あそびあろど、グラウンドゴルフパーク)	○			
	イベント	・大森山公園の既存施設の活用 ※よってけポポラと連携したイベントの開催等	○	○		
防災機能の多様化	● 防災機能	ヘリポート	・地域防災計画の臨時ヘリポート、ドクターヘリの臨時ヘリポート	○		
	● 防災機能	防災備蓄	・備蓄倉庫 ※センター棟に集約して配置	○		
	● 防災機能	マンホールトイレ	※駐車場に設置	○		
	● 防災機能	ゲートウェイ機能	・高速バス乗り場、パーク&バスライド機能、リカーサービス	○		○
その他	交通安全機能	・県道東根・大森工業団地線を渡る横断施設、交通信号	○		○	

* = 国の定める登録要件 / ● = 「やまがた道の駅ビジョン 2020」における必須の取組例

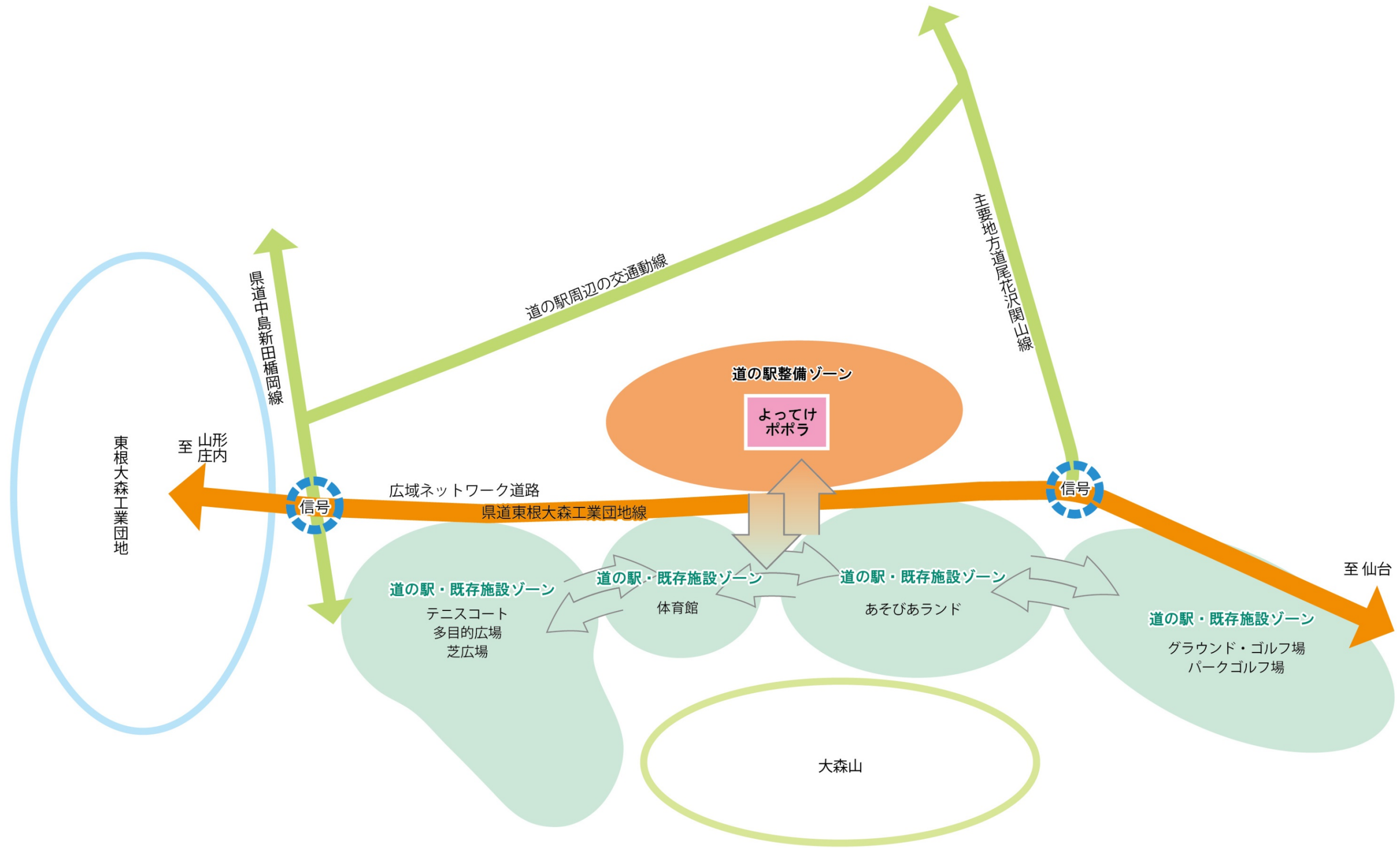
※1 6次産業化に関する特産品の開発・販売は隣接する連携施設「よってけポポラ」で行い、道の駅では特産品の情報提供等を行う。

※2 「他」は関係機関、交通事業者、観光関連団体、民間事業者等との調整を図りながら整備・運営を検討

6. 整備イメージ

(1) 骨格的な動線とゾーニング

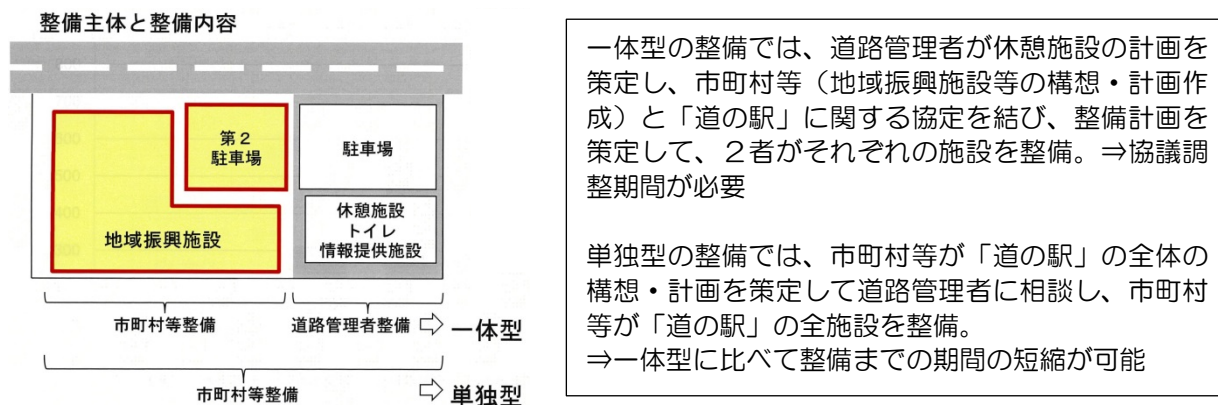
・道の駅の配置と骨格動線については、以下に示すように計画します。



7. 整備方策

(1) 整備手法

- 道路管理者と市町村等で整備する「一体型」と、市町村ですべて整備する「単独型」があります。



- 本計画では、整備期間の短縮と、連携施設である「よってけポポラ」との緊密な連携による整備が必要であることから、市が整備する「単独型」とします。

(2) 運営手法

- 道の駅の運営主体としては、市が直営で行う方式と、公設民営で指定管理者が行う方式が考えられます。
- 市の直営の場合は、公共の目的を直接反映できますが、収益施設の運営ノウハウの問題から公的補助金負担等の財政面でのデメリットが想定されます。
- 公設民営で指定管理者制度を活用する場合は、民間の運営ノウハウを活かした効率的な経営が期待できます。
- 計画地では隣接する「よってけポポラ」との緊密な連携が必要であることや、「道の駅」機能を担う既存公共施設が指定管理者による管理運営を行っていることから「公設民営・指定管理者制度」によることを想定し具体化の検討を進めます。

(3) スケジュール（予定）

	平成 29 年度 (2017 年)	平成 30 年度 (2018 年)	平成 31 年度以降 (2019 年～)
基本構想策定	●————●		
基本計画策定		●————●	
現況測量			
実施設計			
用地測量			
物件調査			
用地取得			
工事			
道の駅供用			●